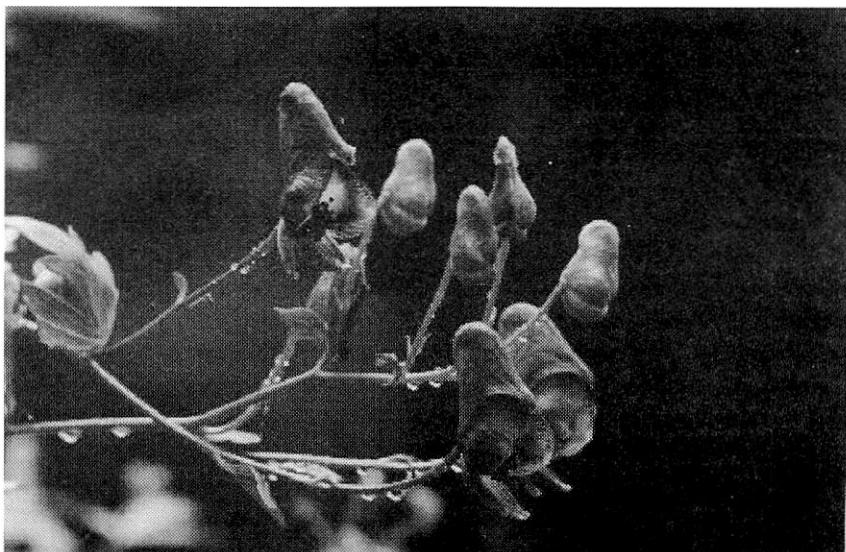


協議会ニュース 96号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 2004. 9



奥三河の四季

『カワチブシ』 キンポウゲ科トリカブト属

じつに奇妙な形の花である。しかし、鮮やかな紫色はすぐに目にとまる。フシニ附子とはトリカブトの別名で、本種は大阪府と奈良県の境、河内地方で発見された。兜状の部分は萼であり、花弁はこの中にある。

茎の高さ：100～200m 花の長さ：4～6cm の花が散房状に多数つく

2003.9.1 撮影：近藤 守（西三河支部）

●特集「虫」

協議会研修会「昆虫から見た近年の自然」

レポート：山口 健 P2

観察会での危険（スズメバチ）：平井 直人 P3

・環境月間「ふるさと親子自然観察会」報告

奥三河支部 レポート：村上 和彦 P4

西三河支部 レポート：山原 勇雄 P5

・会員のページ 天野 保幸 P6

・会員のページ 中嶋 輝弘 P7

・観察会あれこれ 斎竹 善行 P8

・観察会あれこれ 高谷 昌志 P9

・理事会だより P10

・事務局だより P11

・編集部だより・行事予定 他 P12

7月4日(日) 協議会主催講座

研修会『昆虫から見た近年の自然』(講 師 山田 千宏) を受講して
尾張支部 山口 健

温暖化や都市化の影響で昆虫の種類や生態に変化を及ぼしていることなど、普段感じていることを興味深く語ってくれました。クロコノマチョウが愛知県内で目撃される数が多くなったこと、ウスバキトンボが早期から観測されること、アブラゼミ・クマゼミの出現時期が早い等、温暖化やヒートアイランドの影響かと思われる。それら観察会や家の周りで目撃される昆虫(他の生き物も)の記録を積み重ねれば、その環境の変化か考察できて1つの資料になり、記録の重要性を感じた。

昆虫の調査の壁に昆虫図鑑が充実していないことと、学術的に不可欠な標本にするための用具が季節用品として夏以外に入手が困難なことが感じさせられた。植物種の数倍はいると言われる昆虫の種類の多さを植物図鑑のようにコンパクトに記載するのは無理で、そこに同定の難しさがあるが、加えて図鑑の説明は適切でないものが多く、現在と一致していないものも多い。ツマグロヒヨウモンなどは図鑑の記載によりはるかに北に分布を拡大しているし、アオマツムシは自然度の高い森林ではないとされているが、現在では海上の森のかなり奥などに数多く鳴き声が聞こえる。在来のマツムシはコオロギの中では自然度の高い草はらに多く生息しているとあるが、最近は都市の草はらで目撃例が増えている。昆虫図鑑はなかなか改訂されなくて古い記載のままであるから、自分たちで現在のフィールドで目撃された昆虫を記録することで新しい発見や考察ができることに昆虫観察や調査の面白さがある。標本は前記の通り夏以外では入手しにくい季節用品の扱いだが、子供の夏休

みの宿題としてだけでなく、環境調査の手段として多くの日地が関心を持ち、認知されれば、もっと出回るだろうと思った。とにかく標本の作り方を易しく教えてくれたのは良かった。

ところで観察会の参加者の中には、山野草の趣味の方も多く、その延長で植物ばかりに目がいき「今日は〇〇の花を見たよ」で終わり、ギフチョウやホタル等きれいなシンボル的存在を除き、昆虫には関心を示さない参加者も多いが、(もちろん昆虫でも「〇〇を見たよ」で終わるが) 昆虫をそこに生育する植物をとりまく、リンクする消費者として、分解者として、また鳥などの高次消費者を支える糧として、また環境の変化を一早く読み取るセンサーとして、観察会などを通じてそのフィールドの自然の輪郭を伝えればいいなと思った。

草刈りのために多くの種類の昆虫の生息を脅かしているような事を強調し、知らない人が聞くと草刈りは全て悪いように感じとれるような節が感じられたが、多様性を確保するためには、時期にあつた適切な草刈りは必要だが、マニュアルを作成して管理者に提言するような意見もあったが、その通りだと思う。

研修会講師：山田千宏（名古屋支部）

研修担当：大谷（尾張支部）

参加者：岩沢、大沢、葛西、近藤、佐藤、堀田（名古屋支部）鬼頭、小嶋、山口（尾張支部）、小川、原、牧野（知多支部）荷川（西三河支部）

日時：2004年7月4日(日) 14:00～

場所：なごやボランティアNPOセンター

観察会中の危険に対する対応

— 善師野でのスズメバチの襲撃に対する対処 — 尾張支部 平井 直人

今後ハチが活発となる季節になります。昨年の観察会での事例と対応について、尾張支部の平井直人さんの報告です。

2003年8月23日(土)、天候は晴れ(暑い) 第91回善師野自然観察会「ミンミンゼミを捕まえようとお楽しみ花探し」参加者は16名、場所は白山神社のアラカシ林にて。

状況

白山神社下で汗をかきかきミンミンゼミを探した後、白山神社の境内で一休み。出発の声をかけ、アラカシの林を横切る狭い道に入りました。坂道で大変滑りやすく、アオキやアラカシの低木に覆われているため、一人ずつ低木をかき分けながら進みます。この時、後ろの状況確認が不十分で、出発が遅れた人がいることに気がつきました。結果的に女性3人が遅れてアラカシ林に入りました。先頭の自分が林を出た時、「スズメバチだ。頭を刺された。痛い痛い。」という女性の声が林から聞こえてきました。頭を刺されたと聞き、慌てて林を回り込むと、林の入り口に遅れて林に入った女性3人のうち2人が座り込んでいました。林に入ってすぐにスズメバチに襲われたようで、気分はどうか、(いまのところ悪くはない)刺された状態はどうなっているのか(目立った腫れはない)を確認しました。頭を刺されたのでは命に関わること。一刻を争うと思い、携帯電話で救急車を呼びました。現在位置、被害者の年齢、状況、今できる対処を開き、2人を動かさないで救急車を待ちました。今思うとスズメバチに刺された場所(現場)の確認が必要であったと思いますが、2人の要態の悪化が心配で、とてもその場を離れる気にはなれませんでした。状況から考えるとコガタスズ

メバチと考えられますが、林の中の集団でいるとは考えられず、特定できません。

救急車が到着し、刺された2人と友人の女性1人、自分(観察会続行の指示済み)の4人が乗り込みました。救急車は犬山中央病院へ向かいました。移送中は刺されたところにアイシングを行っていました。

病院に着き手当を待ちました。診断の結果、命に関わることはなく安心しました。しかし、刺された場所の腫れと痛みはこれからひどくなるということで、これまでハチに対する観察会中の認識の甘さを反省しました。治療を待っている間に、観察会の保険担当の佐藤さんに連絡し、保険の手続きを確認し、2人に伝えました。また、観察会を継続している方に携帯電話で病院での状況を説明し、午後から用事で帰られる方に車で病院まで来ていただき、女性3人を最寄りの駅へ、その後自分を観察会の場所へ運んでいただきました。大変助かりました。

今後の対策

- 1 当面アラカシ林を通らない。
- 2 名簿は必要事項を必ず記入してもらう。(当事者の名簿に一部不明確な部分があった)
- 3 スズメバチに対しての知識をしっかりと持ち、必ず参加者に伝える。(今回は狭い林で日傘を使い、日傘がハチや巣(後日の調べで巣は見あたらず)に当たった事が原因と考えられる。捨てた赤い日傘にスズメバチが群がり攻撃音を出していた)

応急手当

- 1 毒を口、ポイズンリムーバー等で吸い出す。
- 2 水や冷却剤等で冷やす。(熱を持つため)
- 3 抗ヒスタミン剤含有ステロイド軟膏を塗る。

奥三河支部 『ささゆりと蛇紋岩をたずねて！』

報告／村上 和彦

日 時 : 2004 年 6 月 13 日 (日) (曇 り)

場所：比丘尼城址・丸山蛇紋岩植生地

参加者人数：一般 8 名（大人 7 名，子供 1 名）

指導員名：木村上田山田鈴木

感 想

子供が少なかったのが残念でした。

さゆりも沢山見ることができ、蛇紋岩植生も良く理解できました。

集会場所を間違えた人たちがいたことは、当日の連絡方法を確認すべきだった。

蛇紋岩植生について

りだうはすい市島す。かうい岩布悪城姫まかよとの分が新のい色の岩こが達と町て、金こ紋。岩発市原きうがろ蛇す、の橋田でに目うでまく壊豊とで上れのとりく土。近石づ割蛇こあにはす付岩石のがうがし帶で界の巖様い前化一の境こ模と名風るもののが



モンゴリナラを見ながら蛇紋岩植生について

普帶んは生が岩蛇こ
は地ど。に葉紋はる
で岩るす。通に蛇山れ
張紋えま。普的を仏ら
尾蛇生い、も般象至み
ます。こくえで外。のえ多
まは近生が以す。こびが
い。で岸に所帶で。そ物
して河海所場地うすに植
し三は場の岩よま側山
育、シの状紋るり北高
生はガ。こ地蛇けなの
が木メの湿。受に原産
ラの大陸らすをかヶ特
ナリウ。内かま形や瀬は
リぐ、りとれ変や尾こ
ゴんたはこらはつ。こ
シンドまやる見ではす、
モの。、れもこ面まで
はこす。が流ブ。こ表い山
に。るですがウ、、でたす。
地らだ木をシ物なよで名
の見るの面ナ植くとで有
る。帶けれで水ヨがりんき
こにあり表ハるさ形岩で
ノえ小変紋と

西三河支部

『ホタルの生息する環境とはどんなところだろう~』

報告／山原 勇雄

日 時 : 2004 年 6 月 27 日 (日) 9:30~12:00 (晴れ)

場所：西加茂郡小原村北篠平

参加者人数：一般 12 名

指導員員名：6名 中西三田吉田倉光加藤（進）山原

観察会周辺の自然

く、い犬に昔て達た刈を
なる号はつ人つ草の
少いある19辺がのかのも
が少いで4周広域つ川き
数ん支国篠然。氣りおす
戸進の北自然にて残る。
はが川部あるにて残る。
村染作流るのでルしても
原汚矢上すま所夕を業て
小活、川流まるホ動作し
生為伏交のいも活り残



観 察 会 の 様 子 ・ 感 想

見トで松。そのが見
るンは月し。多出
りぜの。観もバ少
かなくたを等りも
ば(近來実開ジの
人ネ号出の満ネも
の力ア419がジの(い
外ア事ロミリな
以キ道るクザズい
村ア国見ムアジて
原に特る。りン、ノモれ
小特るよン、ノモれ
とくを古モでにはね
見多翔のク道畦巻
るくが飛杉、防の田巻・左
れ物のを木堤畑
顔し大巣のいの右
ぶい量穴古の田巻・左
者者者者者者者者
加め…サは伏川
參ががサで犬伏見
物ボム寺て犬く來

にのし能
ブ川ま生
一、來の
ト來出物
オ出認生
ビが確川
た事再河
しるをら
用見事わ
利をるた
川多出の
伏のがめ
れ、く会
犬草流勸
る水交社
流力し
にダ樂は
横メと氏
宅、物藤
藤虫生加
加昆なの
に生ん元
後水色地
最、で
は中た



中国奥地青海省に高山植物を求めて (速報) 2004.7.24~8.1

東三河支部 天野保幸

ガイドの張さん曰く「なんにも考えてないよ」。

これは、青海省の人たちが植物をはじめ自然に対してどんな考え方や思いを持っているか尋ねた時の張さんの答えである。この答えが示すように、青海省の一般の人たちにとって自然やそこに咲く植物はあって当たり前の存在、種類がどうのと言う前に家畜の餌としての草との認識がすべてである。

そんな中で、道端に咲く小さな草花を観察に外国から訪れた私たちを地元の人たちはどんな思いで見つめていたのだろうか。

青海省は東アジアの植物のルーツの一であるヒマラヤ山脈の東南側、モンスーン気候に代表される地域の北東の端に当たる。

この地域の中心地にはヒマラヤの青いケシで有名になったメコノプシス属が多く分布していることでも知られている。さらにシャクナゲやアツモリソウの仲間、サクラソウ属、リンドウ科やキキョウ科の植物が多くみられたし、キンポウゲの仲間も豊富に分布している。

私は2000年8月末に雲南省を訪れる機会を得、その植物相の豊富さに感動した。特にシオガマギクの仲間は特筆に価した。



今回、再度の中国訪問では先回の目的の一つに上げられていた青いケシ（メコノプシス属）の観察が主要目的であった。そこで、時期を1ヶ月早め、場所もモンスーンの影響をかろうじて受ける青海省とした。しかし、私としては雲南の植物相との比較が目的の一つであり、シオガマギクの仲間の比較も楽しみであった。

青海省の植物

青海省は省都の西寧でも標高2200メートル。大部分は300メートルを越える高原地帯である。そのために緯度的には日本とさほど変わりはないが夏は涼しく、朝夕は冷え込むほどである。冬は極寒で最低気温は-30度以下に達することがある。（人が定住している土地で）

したがって、高原部分の植生は完全に草本帯で高木はわずかに植栽されたものしか見ることはできなかった。（ドロヤナギ類のみ）

さらに、高原地帯の主な産業はヤクやヒツジ、ヤギの放牧である。昔は広大な高原を（完璧な準平原が見られた）遊牧していたであろうが、現在は移動が少なく、高原のところどころは過放牧によって草原が砂漠化していた。

放牧と並んでアブラナの栽培が目をひいた。日本では考えられないような広大な面積で栽培されていた。

青海省の植物は大きく見れば雲南省や四川省と同系列にあるが、乾燥と低温によって種類数は減少している。しかし、同一種類の分布域は格段に広がっていることを感じ取ることができた。詳細についてはまだ未整理のため、後日、私のホームページ上に公開させていただく。

<http://www.sala.or.jp/~yasuyuki/katatumuri.html>



日進市の里山 東部丘陵を守る 立木トラスト

皆さんも 木の持ち主になってください

…天白川水源の森を次の世代に残すために…尾張支部 中嶋 豪弘

東部丘陵は、どんなところ？

丘陵地から湧き水が流れ出る天白川の水源地で、湿地を含む多様な環境に恵まれた里山です。市内各地で宅地開発が進む中、土砂防備保安林として生き残っています

東部丘陵が保安林になったのは？

明治24年の地形図を見ると木はほとんどなく、土砂崩れの記号が見られるはげ山でした。大雨が降れば土砂の流出が起こり川の氾濫に苦しめられたそうです。そのため、今まで多くの費用と労力をかけて植林が続けられ、保安林にも指定されたのです。

トラストの目的

現在、東部丘陵には粘土や珪砂を掘るために鉱業権が設定されていますが、保安林が解除されなければ始めることができません。保安林の解除に至るまでに、利害関係者（保安林解除によって被害を被る者）は異議意見書を提出する機会があります。天白川流域や地元に住む人は当然異議意見書を書くことができますが、東部丘陵のような豊かな里山を残したいと考える多くの人の声を地元の人たちの声と併せ、より大きな声として届けるために立木トラストを始めました。採掘予定地内の立木の持ち主になって頂くことにより、利害関係者として異議意見書を出すことが可能となります。

立木トラストに参加するには？

(寄付金も受け付けています)

① 木の持ち主になるには、下記郵便口座へ 一口千円 を振り込んでください。

加入者名 : **日進東部丘陵 水源の森トラストの会**

口座番号 : **00870-3-166586**

※ 振込用紙には口数、寄付金の内訳をお書きください。

② 木の持ち主になられると異議意見書・契約書、領収書、名札付けイベントなどのお知らせが届けられます。意見書に記入し、名札付けイベントに御参加下さい。



この運動を成功に導くためには、皆様のお力が必要です。
ぜひ、わたしたちのトラスト運動にご協力ください。

日進東部丘陵・水源の森トラストの会 代表 山崎文雄
事務局：日進市藤塚5-153 杉澤方 電話 0561-38-5735
問合せ：石黒 電話 0561-74-0453

<http://www.mb.ccnw.ne.jp/tobukyuryo/trust.htm>

木の実・草の実を使って

・ 竹 築 行

秋は実りの季節で、野山を歩くとさまざまな木の実、草の実などが見られます。観察会では、これらをねたに植物の分布の広げ方一風で運ばれるもの、動物に食べられて運ばれるもの、動物にくつついで運ばれるもの、落ちて転がっていくもの、水に流されていくもの等を解説することをしています。

でも、話を聞くだけではつまらないので、ちょっと取って、ルーペで種子が動物にくつつくしき一センダングサの場合は、鋭いとげがあって、いったん衣服に付くとはずれにくくなっている様子を見てもらいます。

こうして、木の実・草の実を手にとって見たら、次は、これらを持ち帰って、工作を楽しんでみましょう。

こま： ドングリを使ってこまを作ることは、簡単で誰でもできます。以前は、マッチの軸を適当な長さに折って、ドングリの殻斗のついている側に挿してこまの軸としましたが、最近ではマッチがほとんど使われなくなっているので、代わりに爪楊枝を準備するとよいでしょう。ドングリの形や軸の長さによって回り方が変わるので、いろいろと工夫してみましょう。

笛： ヤブツバキの黒い種子に小さな穴をあけ、そこから釘や爪楊枝で内容物を取り出すと笛になります。穴は種子をコンクリートに擦りつけると簡単にあけることができます。外側の殻の部分を持って、横笛を吹くような感じで、穴に息を吹きかけると音ができます。最初は息を吹きかける角度を調整することが難しいかもしれません、慣れると簡単に鳴らせます。種子の大きさで共鳴する波長が異なるので、出る音も変わります。

竹筒鉄砲： 竹筒鉄砲は男の子に人気がある手作りおもちゃのひとつです。内径数ミリの竹の節の間を長さ 15 センチから 20 センチくらいに切って外

筒を作り、その中に木の実の弾 2 つを両端に込めて（最初だけ 2 つ入れますが、次からは発射口の先端部に 1 つ残っていますので、1 つを込めるだけよい。）、外筒の中に入る細い竹あるいは削った割り箸で入り口の玉を発射口に向かって押して、2 つの弾の間の空気圧で弾を飛ばして遊びます。弾としてはカクレミノ、ジャノヒゲ、スギなどいろいろな植物の実が使われますが、使う実の大きさに合わせて筒の径を選ぶことが大切です。適當な大きさの弾になる実がないときは、濡らした新聞紙をちぎって丸めて使います。最近では、のこぎりを使ったことがない子供が多いので、竹筒を切るとき指を切らないよう注意することが必要です。また、竹が近くで手に入らない場合は、あらかじめ調達しておかなければなりません。

動物などを模したクラフト： 接着剤や糸などを用いて、木の実と枝や葉を組み合わせて、さまざまな動物の形を模してみましょう。ドングリの殻斗を糸でたくさん繋いで、先頭の殻斗に目をつけると、芋虫のように見えます。

キリの実に手芸洋品店で売っている目をつけると、河童の顔ができます。これにハンノキの実で作った体をつけると、写真のような可愛らしい河童になります。



こうしたクラフトは、最初は見よう見ま似で始めて、次第に発想が広がって新しいものができるようになります。興味が湧いてきます。

皆さんも、こういう工作にチャレンジしてみてはいかがでしょうか。

観察会のネタ

ジョロウグモ

尾張支部 高谷 昌志

秋になるとどこにでもいるジョロウグモ。ちゃんと観察するとなかなか奥の深いネタです。

1 なぜクモは下向き？

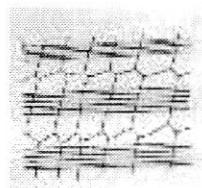
案外知られていません。図鑑でも上向きに描いてあるものがほとんどです。空中で生活するクモはお尻から出した糸でぶら下がるので、頭を下にした姿勢が基本なのです。

2-① 馬てい形の網

網はよく見ると渦巻き状ではなく馬てい形に張ってあります。振り子のように往復しながらヨコ糸を下へ下へと増網するのです。放射状のタテ糸が集まる網の中心より上にヨコ糸はほとんど無いことを観察しましょう。クモは網の中心にいるので全体では上部に位置しており、獲物がかかると重力を利用してすばやく襲いかかれるのです。この馬てい形の網は他のクモにない優れたデザインです。

2-② LPレコード？

ヨコ糸をよく見ると、約10mm間隔でLPレコード盤のような隙間があることが分かります。これは、クモが糸を張る手順としてタテ糸を張った後、中心から外に向かって足場糸を大ざっぱに張っておき、次に足場糸をたどって外から中心に向かってヨコ糸を張っていくためです。隙間の間隔は足場糸の間隔なので、よく見ると隙間の真ん中に細い足場糸が見えます。



* (A)

2-③ まだある網の秘密

普通、タテ糸は外に向かうにつれ間隔が開きますが、ジョロウグモはタテ糸を枝分かれさせるので中心から離れたタテ糸も間隔はほぼ一定です。この技術があるので下方に偏った網を作成できるのでしょうか。

また、網を横から見ると主網の前後にも条網があり、複雑な立体構造であることが分かります。この理由はよく分かりませんが、3重の網と表現します。

3 きれい好き

ちょっとイタズラして、小さな枯れ葉などを網に付けてみましょう。すぐに取り除きにやってきます。きれい好きの理由は網の存在を気付かれないためと考えられます。

いろんなものが降り注ぐ森の中で網をきれいに保つのは大変な仕事です。主が消え、ゴミだらけになった網を見ついたら説明のチャンスです。

4 居候

網の中心にいるのはメスです。端の方にいるのがオスで、ペアではなく数匹が居候して交接のチャンスをねらっています。居候はオスだけではなく、銀色に光るシロカネイソウロウグモが見られることがあります。仁丹の粒そっくりなので大ウケします。

5 他のクモも

クモは鳥や昆虫よりも身近な生き物です。他にもオナガグモ、マネキグモ、オウギグモなどおもしろいネタはたくさんあります。みなさんもクモにチャレンジしてみましょう。



* (B)

*尾張支部の高谷昌志さんよりタイムリーな「秋」のネタの投稿頂きました。ありがとうございます。

■理事会報告

日時 2004/8/21 PM2:00~5:00

場所 名古屋市教育館 第7研修室
出席者 14名

◆議事

1、会員把握

担当者より現在の会費納入者リストの提示及び入金状況の報告。
会費納入システムについての問題提起・課題が討議され以下の項目について確認。

① 本年は3月の総会にて会費の規約改正が行われ間もなく、また充分に周知されていないため特別に移行期間扱いとする。

② 協議会で会費納入についてのお知らせ・依頼文を作成し、振込用紙と併せて協議会ニュース9月号に同封する。

A) 奥三河支部については、支部長に会員に督促してもらう。

B) 他の支部については、支部から督促を行つてもらう。

以上、いずれも9月末を〆切とする。

尚、協議会作成のチラシには以下の項目を記載する。

- ・各支部長の連絡先
- ・各支部の口座番号
- ・口座名義
- ・支部会費の額

尚、各支部の支部長は会計（石田）・名簿管理（齋竹）・事務局（近藤）に上記を連絡のこと

C) また、協議会のみの加入者には協議会の口座番号・口座名義を知らせる。

2、各部会進捗状況

・観察会：ふるさと親子自然観察会の報告を9/1までに担当者（山田）に連絡のこと

・保険：本年1件、春日井にて事故発生。支払い対象になる予定。



・会計：会費納入が現在のままであれば、予定よりマイナス36万円となる。尚、保険の還付金は予算10万円に対し、現在7万円が納入された。今後も適宜入金をお願いしたい。

・企画：HPの立ち上げの必要性。セレトナの森づくり講座を受託予定。

・雑誌：協議会ニュースを3・5・7月と予定通り発行。9月の近々に発行予定。

3、助成金情報・申請（含・事業計画検討）

・子ども夢基金・日本財團などに申請はどうか。

・秋に詳細が発表されるので、それ以降に検討。

4、顧問について

・これまで通りの扱いとする。

5、「水源の森トラストの会」への賛同について

・賛同者リストへの記載は、概ね問題なしということだったが、今回はまずチラシを協議会ニュースに同封し、会員の意見・動向をみて検討することになった。

6、冊子：自然観察の里（奥居達郎さん提供）について

・協議会及び各支部に配布。



名古屋市環境保全助成 決定

名古屋市では本年「名古屋市環境保全助成」の制度を設け、広く市民及び市民団体から企画の募集がありました。

名古屋支部では役員会において助成申請を確認、企画提案者と有志により申請書を作成し、〆切の5月末に窓口に提出しました。

申請総数22件。環境に関わるさまざまな団体からさまざまな申請がされ、そのうちの6団体に助成が決定しました。

名古屋支部は「みんなで調べよう 守ろう 名古屋の自然」をキャッチフレーズに、「アサギマダラ・マーキング調査及び研究と例年の観察会など」を申請しました。結果「アサギマダラ・マーキング調査及び研究」に対してのみ助成が認められました。

また、今回調査のメインとなるフィールドを名古屋市東山植物園とし、パートナーシップを組むことができたことも大きな話題です。

今回の各種内容は以下の通りです。

是非、参加ください。

~~~~~

## ◆アサギマダラ写真展

日時 9月11日（土）～10月16日（土）  
会場 東山植物園内 合掌造りの家  
内容 アサギマダラの写真及び資料の展示。  
動物写真家 佐藤英治氏（名古屋市在住）の  
ファンタスティックなアサギマダラの  
飛翔写真をお楽しみください。

## ◆講演会

第1回 日時 9月11日（土）午後1時～2時30分  
会場 名古屋市教育館・第8研修室  
(地下鉄「栄」下車)  
演題 アサギマダラ～海を渡る蝶のロマン～  
講師 桑山一七氏  
1994年、桑山氏が知多半島でマーキングしたアサギマダラが与論島で発見され、  
当時飛行の最長距離記録として話題となる。

第2回 日時 9月18日（土）午後1時～2時30分  
会場 東山植物園内 合掌造りの家  
演題 マーキング調査の実際とその魅力  
講師 高橋匡司氏  
日本鱗翅学会会員・蝶の分布調査や保全に  
力を注ぐ。

第3回 日時 10月2日（土）午後1時～2時30分

会場 東山植物園内 合掌造りの家

演題 アサギマダラの不思議

講師 窪田宣和氏

日本鱗翅学会会員・アサギマダラを調べる会  
会員。アサギマダラの調査歴20年。

## ◆クラフト教室

日時 第1回 10月9日（土）午後1時～2時30分

第2回 10月16日（土）午後1時～2時30分

会場 東山植物園内 合掌造りの家

内容 「東山のアサギマダラ」を作ろう

講師 野田博義氏（八事の蝶々の会会員）

## ♪ 参加希望のみなさんにお願い ♪

注1)上記のイベントは、いずれも参加費無料です。

注2)事前申し込み不要ですが、当日は先着順とし、  
定員になり次第〆切とさせていただきます。

注3)高校生以上の方は、東山植物園入園料が必要  
です。

## ◆問い合わせ 名古屋自然観察会

アサギマダラ・プロジェクト担当 近藤 (052)822-7460

主催 名古屋自然観察会

共催 東山動植物園

愛知県自然観察指導員連絡協議会

後援 名古屋市 愛知県 (財)日本自然保護協会



## 募集！原稿・写真・イラスト

協議会ニュースでは会員のみなさんの  
参加をお待ちしております。

・原稿、イラスト、写真等…

「会員のページ」の原稿

「個人のWEBページ紹介」の原稿

「観察会の報告」の原稿・写真

「観察会のネタ披露」の原稿

「表紙」の写真・イラスト

今年の表紙は、西三河の近藤守さんの写真  
をコメントと一緒に掲載していますが、  
みなさんも写真やイラストなどで参加して  
みませんか？年間ではなく、単発でも構い  
ませんので、一度ご連絡ください。

その他様々な情報を寄せください。  
お待ちしております。

（連絡先：最終ページ編集部荷川まで）

◆投稿原稿・写真その他作品の掲載につきましては、  
編集部に一任をお願いいたします。（編集部）

## 研修会予定

講座研修「愛知県の自然の状況－生き物を通して－」

協議会主催

| 研修名                                      | 日 時                     | 場 所                                  |
|------------------------------------------|-------------------------|--------------------------------------|
| 「愛知県の植生の特徴と近年の状況」                        | 9/23(祝)<br>14:00～16:30  | なごやボランティア・NPOセンター<br>集会室 (消防署のビル12階) |
| 「動物からみた近年の自然」                            | 11/23(祝)<br>14:00～16:30 | 未定 (詳細次回以降連絡)                        |
| 仮称「いろいろな森づくり」<br>(指導員として知っておかねばならないことなど) | 1/30(日)<br>14:00～16:30  | 未定 (詳細次回以降連絡)                        |

申し込み方法 支部でとりまとめ大谷まで申し込む

連絡、問合先 kokokei@nifty.com 0572-23-6907

## 協議会主催 講座研修

(協議会 研修部 大谷 PR 担当)

「愛知県の自然の状況－生き物を通して－」

第二回

1 日時：9月23日(祝)午後2時～4時  
2 場所：なごやボランティア・  
NPOセンター  
集会室 (消防署のビル12階)

## 3 内容：

「愛知県の植生の特徴と近年の状況」

4 講師： 中西 正氏 (当協議会会長)  
(協議会 研修部 大谷 PR 担当)

## 5 申し込み方法・問い合わせ先

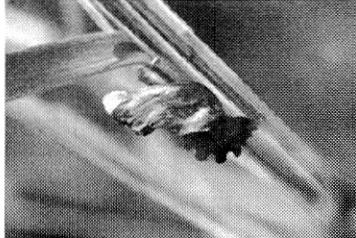
(1) 申し込み方法：支部でとりまとめ、  
又は大谷まで申し込む。

(2) 申し込み・問い合わせ先

e-mail kokokei@nifty.com

Tel 0572-23-6907

多数の参加をお待ちしております。



ジャコウアゲハの蛹

## 編集後記

今年は6月下旬から真夏のような暑さとなり、セミの鳴き声が早くから聞こえ、また長く鳴いているような気がします。しかし、確実に秋が近づき8月のはじめから残暑の気配が感じられます。どうなっているのでしょうか。温暖化？この異常な気候の変化これだけでしょうか？

最近、私たちを取り巻く社会でも異常なことが多く、殺人事件は毎日のように報道されています。経済が中心で全てがお金、ミニ開発が法の目をくぐつて横行しています。私たちの観察会は長閑で人の気持ちを和らげてくれると良いですね。 (松尾 初)

## 編集スタッフ

稻生 和久、岩沙 雅代、近藤 記巳子、  
齋竹 善行、古川 俊江、荷川 真弓、  
松尾 初、横井 邦子、吉田 裕孝

◎みなさまのご意見・ご感想など原稿をお寄せください。

尚、原稿は内容を変えない程度に加筆・修正することがあります。あらかじめご了承下さい。

「協議会ニュース」に関する宛先 (編集部)  
〒445-0863 西尾市葵町44 荷川真弓

## 愛知県自然観察指導員連絡協議会 事務局

〒457-0006 愛知県名古屋市南区鳥栖2-6-17 桜本町 CH101

近藤 記巳子 Tel/Fax 052-822-7460

郵便振替口座番号：00820-9-6546 口座名義：愛知県自然観察指導員連絡協議会